

21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター 2006年度の活動

1. シンポジウム

1)第5回シンポジウム

日時：2007年1月31日（水） 14:00～16:30

場所：東洋大学白山校舎6号館6307教室

テーマ メディアと被害者・被災者～よりよい関係を目指して

司会：

安藤清志（東洋大学社会学部）

話題提供者：

永井祥子（名古屋空港中華航空機事故遺族）

松井 豊（筑波大学）

宮田一雄（産経新聞社）

藤吉洋一郎（大妻女子大学：元NHK解説委員）

指定討論者：

田中 淳（東洋大学社会学部）

2. 研究交流会

2006年5月13日（土） 10:30～12:00

場所：東洋大学白山校舎2号館6階会議室C

講演者：牧野忠康（日本福祉大学社会福祉学部）

テーマ『薬害肝炎被害者調査のクロス集計結果について』

講演者：早瀬薫（弁護士）

テーマ『薬害肝炎問題における製薬会社と国の責任』

2006年6月12日（月） 15:00～17:00

場所：東洋大学白山校舎2号館6階会議室C

講演者：牧野忠康（日本福祉大学社会福祉学部）

テーマ『薬害肝炎被害者調査のクロス集計結果について その2』

講演者：早瀬 薫（弁護士）

テーマ『薬害肝炎訴訟判決の見通しと今後』

2006年7月6日（木） 13:30～18:30

場所：東洋大学白山校舎 雨水会館2階

テーマ

ハワード・ゼア博士と共に修復的実践を考える

コーディネーター・司会

細井洋子（東洋大学社会学部）

講演者

ハワード・ゼア（被害者加害者和解プログラムVORP、ナノメイト中央委員会）

コメンテーター

大坊愛子（千葉『対話の会』）

山田由紀子（弁護士、千葉『対話の会』）

三木憲明（弁護士、関西VOM『対話支援センター』）

2005年10月22日(土) 17:30~21:00
場所：東洋大学白山校舎2号館6階会議室C
講演者：牧野忠康(日本福祉大学社会福祉学部)
テーマ『薬害の被害構造 薬害肝炎を例に』
講演者：早瀬薫(弁護士)
テーマ『薬害肝炎訴訟の現状と課題』

3. 学会活動

Takashi OGUCHI (Chiba University, Faculty of Letters), Tomomi HANAI (Chiba University, Graduate School of Science and Technology), The Effect of Responses to Comments of Guests on the Internet Website on Evaluation of Lodgings. 12th Asia Pacific Tourism Association & 4th Asia Pacific CHRIE JOINT Conference, June 27, 2006 in TAIWAN, Hualien.

Tomomi HANAI (Chiba University, Graduate School of Science and Technology), Takashi OGUCHI (Chiba University, Faculty of Letters) Don't Leave voice of Customer Unsolved: Importance of Lodging's. 12th Asia Pacific Tourism Association & 4th Asia Pacific CHRIE JOINT Conference, June 27, 2006 in TAIWAN, Hualien.

片平洸彦(東洋大学社会学部) 『「薬害とC型肝炎」事件における国と製薬企業の責任(第1報) フィブリスゲン製剤の製造承認時における製薬企業と国の責任』 第47回日本社会医学学会総会 2006年7月23日

大島尚 『若者の携帯メール利用と孤独感について』 社会心理学会第47回大会 2006年9月18日

今井芳昭 『説得情報の提示順序、受け手の認知欲求と応諾度との関連性』 社会心理学会第47回大会 2006年9月18日

片平洸彦(東洋大学社会学部)・上田宗(内科医・ヤコブ病サポートネットワーク代表) 『プリオン病患者と家族への支援』 全国難病センター研究会第7回研究大会 2006年10月15日

大島尚・今井芳昭・加藤司・田中淳・片山美由紀・安藤清志(東洋大学社会学部) 『水害被災地の復興とコミュニティ意識(1)』 日本心理学会第70回大会 2006年11月3日

今井芳昭・大島尚・田中淳・加藤司・片山美由紀・安藤清志(東洋大学社会学部) 『水害被災地の復興とコミュニティ意識(2)』 日本心理学会第70回大会 2006年11月3日

清水 裕 『社会的アイデンティティに他者からの評価が及ぼす影響—集団内他者と集団外他者からの評価の差異—』 日本社会心理学会第47回大会 2006年11月3日

清水裕(昭和女子大学)・松井豊(筑波大学)・西道実(プール学院大学)・田中優(大妻女子大学)・新井洋輔(筑波大学)・竹中一平(筑波大学)・福岡欣治(静岡文化芸術大学)・堀洋元(日本大学)・水田恵三(尚絅学院大学)・元吉忠寛(名古屋大学) 東京都区部における地域自主防災組織の活動事例 日本心理学会第70回大会 2006年11月3日

畑中美穂(立正大学)・安藤清志(東洋大学)・松井豊(筑波大学)・井上果子(横浜国立大学)・福岡欣治(静岡文化芸術大学)・小城英子(聖心女子大学)・板村英典(関西大学) 『ジャーナリストの惨事ストレス(3)放送関係者に対する面接調査から』 日本心理学会第70回大会 2006年11月11日

安藤清志(東洋大学)・畑中美穂(立正大学)・松井豊(筑波大学)・井上果子(横浜国立大学)・福岡欣治(静岡文化芸術大学)・小城英子(聖心女子大学)・板村英典(関西大学) 『ジャーナリストの惨事ストレス(4)ストレスケアに向けて』 日本心理学会第70回大会 2006年11月11日

安藤清志(東洋大学社会学部)・福岡欣治(静岡文化芸術大学) 『災害・事故・事件報道にみるジャーナリ

ストの惨事ストレス—ストレスケアシステムの構築をめざして—』 日本マス・コミュニケーション学会 2006
年度秋期研究発表会 2006年11月11日

福岡欣治（静岡文化芸術大学文化政策学部）・井上果子（横浜国立大学教育人間学部）・松井豊（筑波大学大
学院人間総合科学研究科）・畑中美穂（立正大学心理学部）・板村英典（関西大学大学院社会学研究科）『ジ
ャーナリストの惨事ストレス（5）Dart Center 調査からみた海外でのストレス対策の動向』 第6回日本トラウ
マティック・ストレス学会大会 2007年3月10日

4. 論文

片平冽彦「薬害防止・根絶における医師の役割—薬害事件の教訓から」、『Medical ASAHI』第35巻第7号 通
巻416号, 朝日新聞社 2006年7月, pp75~79

片平冽彦「薬害の被害者支援と根絶のために□ 薬害C型肝炎（1） フィブリノゲンの場合」、『季刊 Nurse
eye』2006Vol.19No.3 通巻182号, 桐書房, 2006年9月, pp98~104

片平冽彦「薬害と人権 —ミドリ十字の「人権侵害」を事例に」、『人権21・調査と研究』No.184, 岡山人権
問題研究所, 2006年10月, pp15~24

片平冽彦「薬害と人権 —ミドリ十字の「人権侵害」を事例に—」、『月刊国民医療』 No.229, 国民医療研
究所, 2006年10月, pp1~7

片平冽彦「薬害事件における医師の加害責任—薬害エイズ及び薬害C型肝炎事件を事例として」、『月刊保団
連』2006年12月号, 全国保険医団体連合会, 2006年12月, pp19~24

片平冽彦「薬害の被害者支援と根絶のために□ 薬害C型肝炎 非加熱第□因子製剤の場合」、『季刊 Nurse
eye』2006Vol.19No.4 通巻183号, 桐書房, 2006年12月, pp98~104